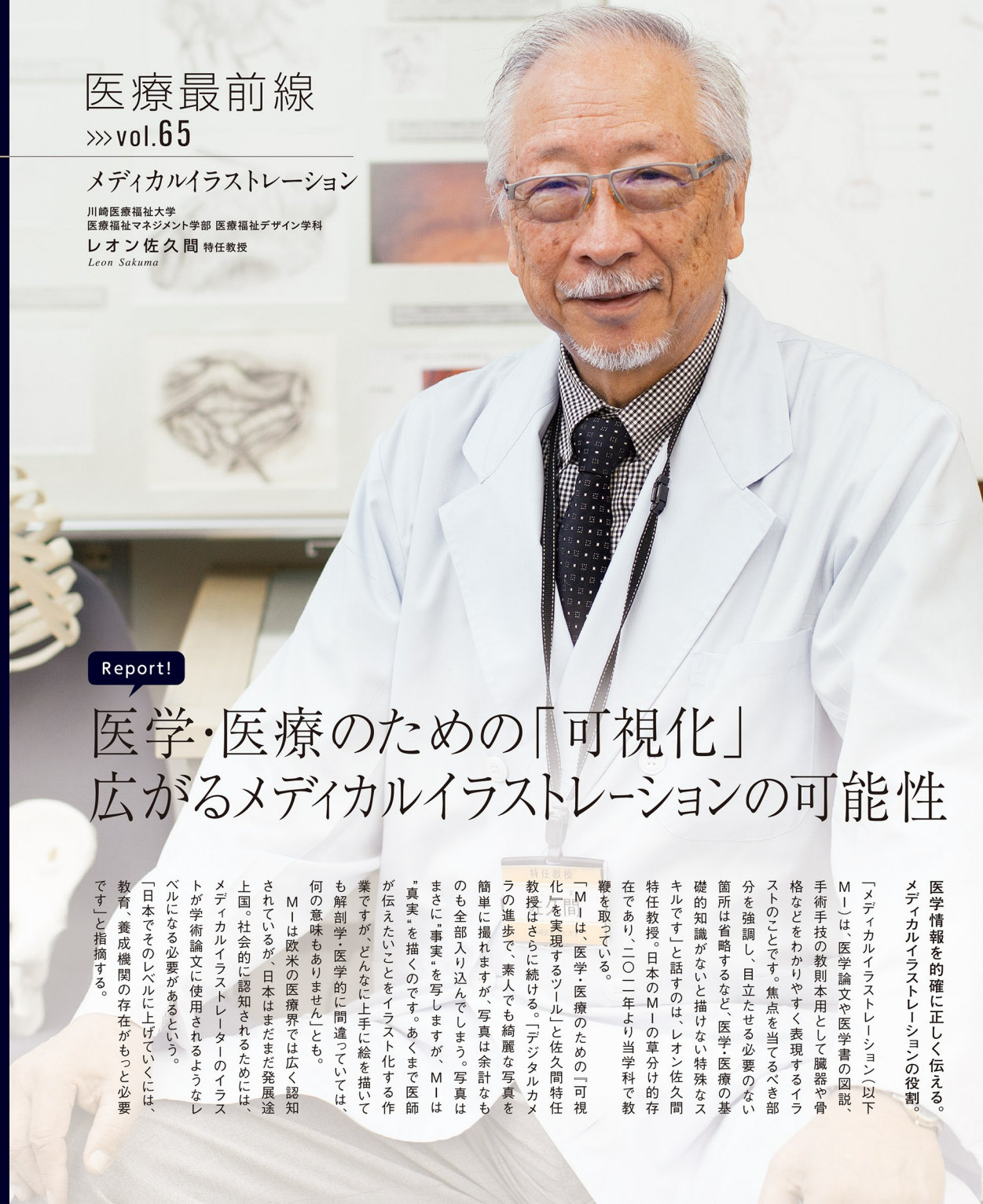


医療最前線

»»vol.65

メディカルイラストレーション

川崎医療福祉大学
医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科
レオン佐久間 特任教授
Leon Sakuma



Report!

医学・医療のための「可視化」 広がるメディカルイラストレーションの可能性

医学情報を的確に正しく伝える。メディカルイラストレーションの役割。

「メディカルイラストレーション（以下M-I）は、医学論文や医学書の図説、手術手技の教則本用として臓器や骨格などをわかりやすく表現するイラストのことです。焦点を当てるべき部分を強調し、目立たせる必要のない箇所は省略するなど、医学・医療の基礎的知識がないと描けない特殊なスキルです」と話すのは、レオン佐久間特任教授。日本のM-Iの草分け的存在であり、二〇一二年より当学科で教鞭を取っている。

「M-Iは、医学・医療のための「可視化」を実現するツール」と佐久間特任教授はさらに続ける。「デジタルカメラの進歩で、素人でも綺麗な写真をも簡単に撮れますが、写真は余計なものも全部入り込んでしまう。写真はまさに「事実」を写しますが、M-Iは「真実」を描くのです。あくまで医師が伝えたいことをイラスト化する作業ですが、どんなに上手に絵を描いても解剖学・医学的に間違っている、何の意味もありません」とも。

M-Iは欧米の医療界では広く認知されているが、日本はまだまだ発展途上国。社会的に認知されるためには、メディカルイラストレーターのイラストが学術論文に使用されるようなレベルになる必要があるという。

「日本でそのレベルに上げていくには、教育、養成機関の存在がもっと必要です」と指摘する。

医学的知識とデザイン技術を専門に学べる国内唯一の学科。

佐久間特任教授が教鞭を執る川崎医療福祉大学「医療福祉デザイン」学科は、M-Iを専門に学べる国内唯一の学科。医学的知識と描く技術の双方が必要とされるメディカルイラストレーターを育成するため、当学科には医科大学と二つの附属病院を有する川崎学園の強みを生かしたカリキュラムが用意されている。

「二年次には医科大学の教員から講義を受け、二年次からは実技。三年次では、複雑な人体構造や機能を学び、実際に手術現場を見学してイラスト化する練習をします。そして四年次では、記憶をもとに人体構造をビジュアル化したり、手術手技を描けるよう指導しています」。

二〇一四年に開催された日本臨床学会総会では、日本医学史上初めてM-Iが取り上げられた。「医科大学、大学附属病院など、M-Iを必要としています」と佐久間特任教授。

わが国において早くからM-Iの存在価値と可能性に着目してきた川崎学園。「日本のM-Iの先駆者として真に医学知識に精通した人材を育成したい」。その想いは、確実に花開いている。

お問合せ

川崎医療福祉大学
岡山県倉敷市松島288
☎086-462-1111
https://www.kawasaki-u.ac.jp

当学科では、医学解剖の見学や医学教育、病院実習、加えて佐久間特任教授のゼミでは臨床現場での体験や医師からの直接指導などを実施。学術論文にふさわしいメディカルイラストレーションの描画スキルを教えている。



Medical illustration



川崎医療福祉大学
医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科
平野 聖 学科長
Kiyoshi Hirano

当学科は「メディカルイラストレーション」を専門に学べる国内唯一の学科です。医科大学、2つの附属病院を有する川崎学園の恵まれた教育環境を生かしながら、「医療福祉」と「デザイン」という2つのジャンルを高いレベルで同時に学ぶことができます。現在、「メディカルイラストレーション」のほかにも病院の企画広報を担う人材を育成する「ホスピタルデザイン」と医療福祉の知識を持つデザイナーを育成する「ビジュアルコミュニケーション」の3コースを設置。今後、病院や福祉施設、出版社やデザイン会社などでさらに必要とされる人材を育成していきます。



現在、医学的知識をもつメディカルイラストレーターは日本ではまだ極めてわずかである。「求められる社会貢献職業」としての潜在的ニーズは大きい。



2DCG、3DCG、3Dプリンターとその表現手法はさらに広がっているが、その起点となるのは手描きのイラストである。